

## バス停御霊神社前の地蔵

八柳 修之

新型コロナ蔓延はいつ終息するか、一層先が全く見えない状況になって来た。STAY HOME、お家で過ごそう。日常生活に必要な食料品、薬等の買物以外には外出せずに家に居ることが求められ、わずかに外出は健康維持のため家の周りで行う散歩、ジョギングに限定されている。図書館、文書館は閉鎖されネットで貸出予約はできなくなり、有隣堂もクローズされ本の購入や調べ物が出来なくなったのは痛手だ。そこで、あらためて家の周り半径 500m 以内に、これまで日常さりげなく通り過ぎていた街、風景に新しい発見を見出すことを考え、これをまとめることで時間をつぶすことを考えた。



家から 100m 位歩いたところに県道 32 号線が鎌倉方面に通っている。鎌倉方面に歩いて行くと神中のバス、停御霊神社前がある。停留所前にお地蔵さんがあるがこれまで特段関心を持ってはいなかった。改めてよく見ると、お地蔵さんは比較的新しく、台座に「神奈川県道藤沢川名線新設により堂の下の墓地を神光寺に転改葬した。これを記念した供養塔を建設し慰霊と町内の安全を祈願する。昭和 43 年 1 月 15 日」とあった。施主の名前が連ねられ大半が砂川さんであった。川名地区は砂川姓が多いようだ。バス停横から右へ入り川名谷戸への道の角には砂川さんの本家と見られるような大きな家がある。

ネットで調べると 32 号線は南藤沢の東電の四つ角から長谷二丁目までの県道で、昭和 43 年に開通した比較的新しい道路である。この道路が出来る前は、鎌倉への道は藤沢駅南口を出て左へ OK ストア前、商店街、境川に架かる大道橋を渡り東海道線線路沿いに進み、柏尾川にかかる川名橋を渡り御霊神社前に入る道幅も狭い迂回ルートだったようだ。(下の地図参照)



赤線は以前のルート 黄線は県道 32 号線

32 号線開通に当たって障害となっていたのは、この辺りにあった堂の下墓地であった。堂の下とは固有名詞かお堂があったのか分からないが、よくみると道路建設のために岩を削り取った跡が確認されるので、小さな岩山があったと推測される。この道路の完成によって、藤沢・鎌倉間は便利になり時間的に短縮された筈だが、南藤沢の東電前はいつも渋滞している。

もう一つは境川に橋を架けることであった。橋は柏尾川下流にあった川名橋の下流、境川との合流点に橋を架けることであったが、橋の袂まで行って見ると新川名橋は昭和 42 年 3 月に工事が完成している。一昨年、橋と併行する水道管橋が立替えられた。橋の工事より、道路の掘削に時間がかかっているが、おそらく墓地の移転に伴う交渉などの諸作業に時間がかかったものと思われる。 完



境川と柏尾川の合流点 新川名橋